

JCHO久留米総合病院

河野 れい・寺崎 洋

本院が『独立行政法人地域医療推進機構（JCHO）久留米総合病院』となって4年（平成26年4月JCHO発足）、新診療棟が完成してから2年半となりました（平成27年11月新診療棟落成）。最近では旧名称『久留米第一病院』で呼ばれる事も少なくなっており、地域の方々からも認知されてきたようです。

さて、毎年のことですが今回もこの原稿を書くにあたり、1年間を振り返ってみました。ここ1年～1年半の間で本院は新たに「日本糖尿病学会認定教育施設Ⅱ」、「日本感染症学会研修施設」、「日本高血圧学会研修施設」として認定され、また「緩和ケア外来」や「がん相談支援センター」などを開設するなど、現状に留まることなく新たな目標に取り組みつづけております。

現在、放射線科は部長の寺崎先生と私・河野の2人体制で行っています。放射線科の業務内容はCT・MRI・RI読影が中心であり、検査件数の推移はグラフのごとく平成25年は6237件、平成26年は7267件、平成27年は7344件、平成28年7658件、平成29年8021件と着実に増加しています。また、病院併設の健康管理センターの画像読影も他科と分担して行っており、放科担当件数は平成25年4806件、平成26年4455件、平成27年4351件、平成28年4473件、平成29年4739件でした。

田中眞紀院長に「広いわねー」と言われる放射線科の読影室は、南向きのため5月頃からはドンドン室温が上がっていき、また読影用PCや高精細モニターの発熱も加わって早い時期からエアコンが必須です。また読影室とCT・MRIの検査室が若干離れているため、造影剤の副作用に対する初期対応を迅速に行うべく、CT・MRIの操作室の片隅に読影用PCを追加で設置して午前中は寺崎先生、午後は私が読影をするようにしています。

一昨年より読影の応援に来て頂いておりました加來雅子先生が昨年7月末で産休に入られ寂しく思っておりましたが、加來先生はその翌月の放射線科診断専門医試験に見事合格され、更にその後元気な赤ちゃんを無事出産されたとのことで、大変嬉しいご報告を頂きました。産休明けにはまた本院に（特に河野に）お力添えを頂ける日を楽しみにしております。

平成28年7月より本院で開始された乳癌術後照射を対象とした放射線治療も、大学医局からの支援により安定的かつ安全に運用されており、年間約100件の放射線治療を行って頂いております。立ち上げにご尽力頂きました淡河恵津世教授に深く御礼申し上げます。また本年4月からは氷室秀知先生に乳癌の術後放射線治療にご尽力頂いており、スタッフ一同大変感謝しております。

現在の当院は勤務している医師36人のうち17人が女性医師です。つい先日ですが、JCHO 久留米総合病院の女性医師支援懇談会があり参加してきました。若い医師、他科の先生方と沢山お話を
 する機会であり、楽しく勉強になったひとときでした。久留米大学病院放射線科も多くの女医さん
 が入局し働いています。仕事、家庭など色々な壁にぶち当たるかと思いますが、自分のペースで仕
 事を継続していくことが後につながるものと思っています。人並みに学年だけは上がっていくのに、
 見合っただけの仕事がこなせていない葛藤に苛まれることも多々ありますが、まずは前進するのみ。
 今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

